

産業・情報技術等指導者養成研修

～アクティブ・ラーニングについて学んだ5日間～

埼玉県立戸田翔陽高等学校教諭 小林 宏

1. はじめに

平成28年8月1日（月）から5日（金）までの5日間、千葉商科大学で行われた「産業・情報技術等指導者養成研修」に参加させていただいた。この研修は独立行政法人教員研修センターが主催しているもので、今年度のテーマは「アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた教科『商業』における授業改善に関する講義と実習」であった。全国から40名近くの高校の商業の教員が参加して、アクティブ・ラーニングについて5日間じっくりと学んだ。



研修会場の千葉商科大学

2. 研修1日目

① 文部科学省初等中等教育局教科調査官

西村修一さん

「商業教育は変わったか

～学習指導要領実施3年間を振り返る～」

「単に知識や技術を習得させることにとどまらない指導が大切である。心と体全体で学ばせる必要がある。チョーク&トークだけではいけない。」という話があり、これからの商業教育ではアクティブ・ラーニングが重要であることを強く感じた。その一方で、「活動あって学びなしではいけない。イベント等の実施が目的ではない。」という話もあり、授業の中で育成する力を明確にすることも忘れてはならないと思った。また、「商業教育そのもので勝負する。」という言葉にはとても考えさせられた。「商業とは何か。」「商業教育とは何か。」について、それぞれの教員が日々考え続け、検定試験の指導だけに偏らない商業教育を実践していくべきだと感じた。

② 株式会社ジョイワークス協働経営者・日本

ファシリテーション協会理事 飯島邦子さん

「ファシリテーション能力の向上」

研修初日から、アクティブ・ラーニングにおいて最も重要なポイントの一つであるファシリテーションについて学ぶことができた。ファシリテーションとは支援・促進することであり、これからの教員にはその能力が求められる。この講義では、ファシリテーションの手法・ツール、スキル、マ

インドなどについて詳しく学ぶことができた。また、授業の事前準備シートを作成しながら、生徒たちが主体的に学べるように教室のレイアウトや話し合いの方法などをじっくりと考え、場をデザインすることを体験できた。その中で、目的や目標をきちんと設定することの重要性に気付いた。

3. 研修2日目

① 研修講師・ファシリテーター 後藤拓也さん 「ワークショップ・デザイン」, 「ワールド・カフェ実践」

アクティブ・ラーニングでは、ワークショップ型の授業を行うことも多い。この講義でも、やはり、授業の目的や目標の設定が大切だということを学んだ。「ワークショップの前と後で、何を、どのくらい変えたり、創ったり、解決したいのか。」を具体的な言葉にすることが必要なのである。昨日の西村教科調査官の「活動あって学びなしではいけない。イベント等の実施が目的ではない。」という言葉とも繋がっていると感じた。また、ワークショップのプログラムのデザインにおいて、安心・安全な場や関係性の構築が重要であることも学んだ。「失敗してもよい。」「失敗を楽しむ。」といった場を作り、生徒たちの主体性を引き出すことが大切なのだと感じた。

また、ワールド・カフェという話し合いの方法も体験した。商業教育をテーマに行ったのだが、カフェにいるようなリラックスした雰囲気の中、



ワールド・カフェの様子

模造紙を囲みながら、様々な方と積極的に意見交換できた。時には、このような学習方法を授業に取り入れるのもよいと感じた。

② アイデアプラント代表 石井力重さん 「アイデア創出の指導」

ブレインストーミングやマインドマップ作成を体験しながら、アイデア創出の指導のポイントを学んだ。私自身、授業でプレストを多く実践してきたが、この講義で新しいことをたくさん学んだ。例えば、「誰かのアイデアの良いところをほめる」、「できるかどうか分からないアイデアを出す」などの4種類のカードを用いたプレストをしながら、そのルールを学ぶ方法を知った。また、プレストのルールの一つである「批判禁止」は正しくは「判断を先に延ばすこと」であると学んだ。さらに、おもしろいアイデアが書かれた紙に☆印を記入していく方法、3人組でトーナメント戦を行っていく方法など、アイデアの相互評価の方法もいくつか学んだ。これからの商業の授業では、発想力や創造力の育成がますます重要になると思う。そのような授業で、この学びを活かしたい。

4. 研修3日目

① 株式会社プラグ代表取締役 小川亮さん 「商業高校におけるケースメソッドの利用（ケースメソッド実践）」

「トイレットペーパーの国内市場規模はどれくらいでしょうか。」「あなたは盛岡市の観光課の課長です。盛岡の観光収入を上げるためにはどうしたらよいでしょうか。」「飲むと体から花の香りが放出されるペットボトルの水を開発しました。いくらで販売しますか。」など、様々なケースメソッドによる学習を体験した。ケースメソッドを利用した学習には正解がないものも多く、「考え方（フレームワーク）」を身に付けさせることが目的だと知った。高校の授業では、正解があるものについて学習させることが多い。これからの商業の授業では、ビジネスで必要となる「考え方」

を学ばせることが大切になるだろう。

また、慶應義塾大学ビジネス・スクールで使われている「青梅慶友病院」について書かれたケースメソッドの教材を読み、気付いたことを発表し合った。ちなみに、慶應義塾大学ビジネス・スクールで使われているケースメソッドの教材はインターネットで購入できるそうで、中には、高校の授業でも活用できそうなものもあるという。

講師の小川さんは、ケースメソッドを利用した授業では、とにかく自分の意見を発表することが大切だとおっしゃっていた。だまっていたはいけないのだ。そのためには、生徒たちが安心して意見を述べ合える環境を作ることが必要だろうと感じた。

また、小川先生のファシリテーションはとても参考になった。参加者にじっくりと考えさせ、その発言を促す姿勢を見て、やはり、アクティブ・ラーニングの授業ではファシリテーションが大切だと実感した。



小川さんによるケースメソッドについての講義

② 全国教室ディベート連盟理事・同関東甲信越支部副支部長 神永誠さん 「ディベートの指導法」

「ディベート甲子園」を主催されている全国教室ディベート連盟の神永さんから、ディベートの方法やポイントについて詳しく学んだ。「日本は救急車の利用を有料化すべきである」という論題のモデルディベートを行い、フローシートを作成しながら、より深く理解することができた。ディ

ベートのポイントの一つは「生徒たちが自分事として取り組むこと」であり、アクティブ・ラーニングにおいては、生徒の当事者意識が重要であるとあらためて実感した。

5. 研修4日目

① 千葉商科大学教授 千葉啓司さん

「ケーススタディを取り入れた財務諸表分析の指導」

まず、ケーススタディとケースメソッドの違いを学ぶことができた。ケーススタディは第三者視点で、ケースメソッドは当事者視点であることが違いの一つであると知った。

また、実際に、食品スーパーマーケットを経営している株式会社ベルクの財務諸表を分析した。流動比率、自己資本比率、自己資本当期純利益率、自己資本回転率など、様々な分析を行った。

さらに、株式会社セブン&アイ・ホールディングス及び株式会社セブンーイレブン・ジャパン、イオン株式会社などの財務諸表等も分析した。

「財務会計」などの授業で、このようなケーススタディを取り入れ、生徒たちに分析する力を付けさせることも大切だと感じた。

② 岡山県立岡山東商業高等学校 指導教諭

笠木秀樹さん

「思考力・判断力・表現力等を育む授業展開」

知識構成型ジグソー法を用いた協調学習について学んだ。

実際に、「青森りんごでビジネスをするためにはどうしたらいいか。」という課題の知識構成型ジグソー法による「ビジネス基礎」の授業を体験した。まず、「海外への輸出」、「無農薬栽培」、「6次産業化」という3つの内容に分かれ、それぞれがプリントで学習した（エキスパート活動）。次に、それぞれの内容を学習した者が一つのグループになり、エキスパート活動で学んだことを伝え合いながら、課題について話し合った（ジグソー活動）。そして、グループごとに、自分たちが出

した意見を発表した（クロストーク）。

この体験後、座席の作り方や評価の方法などについて様々な質疑応答があり、さらに学びが深まった。

また、ベテランであっても、新しいことを学び続けている笠木先生の姿にはとても感動した。

③ 千葉商科大学専任講師 近藤真唯さん

「ワールド・カフェ実践」

商業教育の様々な課題をテーマにして、ワールド・カフェを実践した。様々な地域の先生方と本音でじっくりと話し合うことができた。

6. 研修5日目

① 日本商業教育振興会代表理事

小島一富士さん

「会計教育」

小島さんは日本商業教育振興会代表理事だけでなく、中央大学経理研究所専任講師、高崎商科大学経理研究所主任研究員、朝日大学会計研究部監督、公認会計士なども兼任されている。多くの公認会計士を育てていらっしゃる小島さんは「まず初めに、志を育むことが肝心だ。」とおっしゃっていた。簿記会計を学び始める生徒や学生たちに、「簿記会計の素晴らしさは企業や人を救うことである、つまり、社会貢献である。」と感じさせ、志を持たせることが大切だと話されていた。その初動をしっかりと行えば、生徒たちは主体的に学ぶという。まさに、アクティブ・ラーニングであると感じた。また、そのためには、営業、販売、製造などの様々な立場で、簿記会計はどのように活かせるのかについて、教員がきちんと考え、理解している必要もあると話されていた。

また、「学校や生徒と企業や地域を繋ぐことが商業の教員の大切な仕事である。」など、共感する話が多くあった。

そして、小島さんの商業教育への情熱や商業を学ぶ高校生たちへの愛情に、強い刺激を受けた。

② グループ活動

この研修では、5～6名のグループで毎日振り返りなどを行っていた。私は、岩手県、千葉県、岡山県、愛知県、佐賀県の先生方と同じグループになった。

振り返りでは、それぞれの気付きなどを話し合うことによって、学びがより深いものになった。

また、「アクティブ・ラーニングを活用した授業の学習指導案の作成」という課題に、グループで毎日少しずつ取り組んだ。私のグループは「ビジネス経済」の学習指導案を作成することになった。「どの単元でアクティブ・ラーニングを活用するか。」「どのような学習方法を用いるか。」「時間配分はどうか。」など、じっくりと話し合いながら進めた。最終的に、「現代の市場経済の特色」という授業の中で、「高校生をHAPPYにする、今までにないビジネスを考えよう。」というテーマのブレインストーミングを取り入れながら、現代の市場経済の特色やベンチャー企業について深く学習するという授業を考えた。この研修で学んできたアクティブ・ラーニングのポイントを確認し合いながら進めたので、さらに理解を深めることができた。

③ グループ発表

アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の学習指導案について、それぞれのグループが発表した。グループは7つあり、それぞれが「マーケティング」、「商品開発」、「ビジネス経済」、「ビジネス経済応用」、「簿記」、「財務会計」、「情報処理」を担当した。どのグループもとても細かい点まで話し合った様子が伝わってくる発表であった。ブレインストーミングやケースメソッドといった様々な学習方法を取り入れているのはもちろん、目的や目標の設定、教室の座席等の場のデザイン、教員のファシリテーションのポイント、評価方法など、この研修で学んできたことをしっかりと活かした素晴らしい内容であった。個人的には、「試算表の貸借合計の不一致の原因について、グ



「ビジネス経済」の学習指導案の発表

ループでKJ法を用いて考える。」という「簿記」の授業がおもしろかった。

7. この研修で学んだこと

この5日間で学んだことはとても多い。

まず、アクティブ・ラーニングのための様々な学習方法を知ることができた。ブレインストーミング、ケースメソッド、ケーススタディ、知識構成型ジグソー法、ワールド・カフェ、ディベートなど、様々な学習方法について、体験しながら学ぶことができた。「マーケティング」の授業でケースメソッド、「商品開発」の授業でブレインストーミング、「財務会計」の授業でケーススタディ、「経済活動と法」の授業でディベートを取り入れるなど、それぞれの学習内容、学校や生徒の実情などに合わせて、最適な方法を活用することが大切であろう。また、今回学んだもの以外にも、『学び合い』やペアワークなど、様々なアクティブ・ラーニングのための学習方法がある。それらも幅広く研究し、新しい学習方法を取り入れながら、授業改善に努めていくことが大切だと感じた。

次に、学習方法だけでなく、「アクティブ・ラーニングの本質」について理解することが重要であると気付いた。つまり、様々な学習方法のノウハウを身に付けるだけではなく、「そもそも、アクティブ・ラーニングとは何なのか。」「アクティブ・ラーニングのポイントにはどのようなものがあるのか。」など、それぞれの教員がじっくり

と考え、理解する必要があると思った。

私もまだまだ勉強中であるが、アクティブ・ラーニングにおいて大切なのは「教員のファシリテーション」、「生徒の当事者意識」、「授業の目的や目標」だと考えている。

この研修の初日に学んだファシリテーション能力を教員が向上させ、生徒たちの学びを促進できるようになることが大切であろう。これからは、ファシリテーションが上手な教員が良い教員になると思う。ファシリテーション技術を研究し、実践し続けることが重要であると感じている。

また、授業中の生徒たちの当事者意識を高めることも大切である。これまでの高校の商業教育では、「検定」によって、生徒たちの学びの当事者意識を高めることが多かったと思う。しかし、今後はより様々な工夫が必要となるであろう。西村教科調査官がおっしゃるように「商業そのもの」を学ばせていくためにも、「検定」以外の方法も用いながら、学び手である生徒たちの当事者意識を高めていく必要がある。そのためには、教員が教材や学習方法についてより深く研究し、実践していくべきである。

授業の目的や目標をきちんと設定することも大切である。生徒たちが魅力を感じるアクティブ・ラーニングの授業を実践できたとしても、その目的や目標が明確でなければ意味がない。西村教科調査官の言葉にもあるように、授業はイベント等の実施だけが目的ではいけない。目的や目標をしっかりと設定しながら授業をデザインし、それをきちんと評価に繋げることが大切なのである。

8. おわりに

この5日間、アクティブ・ラーニングについて、集中して学ぶことができた。アクティブ・ラーニングについてここまでじっくりと学べる研修はなかなかないと思う。とても貴重な経験をさせていただいた。

私はこれまでもアクティブ・ラーニングを大切にしてきたが、今回の研修を通して新しいことを学んだと同時に、これまでの自分の実践に対する

確信や勇気も得た。今回の研修で学んだ多くのことを活かし、さらに授業改善に努めていこうと思う。

また、校内はもちろん、他校の方々にも、この学びを伝えていきたい。

先日、県の初任者研修で、マーケティング分野についての講義を担当させていただいた。その際、この研修で学んだアクティブ・ラーニングの重要性や様々な学習方法などについて、8名の若い先生方にお話した。

また、私は4年前から『楽しく学ぶ商業の授業ラボ』というフェイスブックページを運営し、商業教育に関する様々な話題を発信し続けている。現在では、たくさんの方々にご覧になっていたっており、全国各地の高校の先生方や商業教育に関心がある方々とも繋がっている。この取り組みの中でも、今回の研修での学びや今後の実践について発信していきたい。

今後も、学校や県の枠を超えて、様々な方と共に、アクティブ・ラーニングについて研究し続けたいと思う。

研修4日目の夕方、「これからの行動」について参加者一人一人が考え、それぞれの想いを紙に書いて発表した。「意識を変える」、「ワクワクするような授業をする」など、全参加者が前向きな発言をされていて、とても感動的であった。その中には、「失敗を恐れない」というものもあった。この研修の参加者が現場に戻り、新しい商業教育に挑戦していく中で、私も含めて、失敗すること

もあると思う。そのような際は、周囲の方々ぜひ温かく見守ってほしい。それぞれの職場に、挑戦や失敗を許す環境を作ってほしいと感じる。

この研修で、日頃はなかなか接することはない他の地域の先生方とお会いすることができた。そのような方々と交流する中で、それぞれの地域にはそれぞれの課題があり、また、地域が異なっても共通する課題があることを知った。そのような意味でも、この研修はとても意義深いものであった。

最後に、この研修を主催してくださった独立行政法人教員研修センターの方々、会場等の協力をしてくださった千葉商科大学の方々、そして、講義をしてくださった講師の方々に感謝の言葉を申し上げます。

本当にありがとうございました。

学び多き5日間でした。



参加者の想いが書かれた紙